

2020 年度活動報告 CJP 授業：アカデミック日本語

田中 良（関西学院大学日本語教育センター）
藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は日本語能力試験 N1 合格程度の日本語力を持ち、正規学部生とともに一般授業を履修する学生を対象としたものである。大学の一般授業で求められる総合的な日本語力を身につけることを目指しており、週 2 コマの授業のうち、1 コマを文章表現、もう 1 コマを口頭表現としている。今年度春学期は Zoom、LUNA、OneDrive を使った同時双方向型で行った。履修者は 3 名であった。

2. 授業内容

文章表現クラスでは、前半では主に日本語の文構造や論文構造、論理技法を学習、後半では論文執筆を行った。対面授業の再現を考えスライド内容を zoom の画面共有で説明し、理解と定着のための練習をする方法を取った。しかし実際の学習形態に合った効率的な授業を模索し、音声を入れたスライドの動画の提示に替えた。授業開始時に先週の提出課題のフィードバックをし、視聴する動画と練習課題の順番を示し、いったん解散し各自が学習をし、各練習が終了する頃合いで再集合するという方法を取った。

口頭表現クラスでは、グループ発表とディスカッションを通して、発表と話し合いの力を伸ばすことを目指している。活動のため、LA 3 名を採用し通常 4 名程度（留学生 3 名、LA1 名）でグループワークを行っているが、今学期は履修者が 3 名であったため、留学生と LA 1 名ずつのペアワークを中心とした。また、毎回授業の冒頭にグループや全体でのフリートークの時間を設け、オンラインで一般授業を履修する留学生が情報共有したり LA に相談したりできるような機会を作り、一般科目の学習サポートに努めた。

3. 成果と今後の課題

今後の課題として、文章表現クラスでは、論文執筆の段階で学生ごとの差が生まれた。慎重な学生も気兼ねなく積極的に取り組んでいけるクラスづくりを行っていきたい。

口頭表現では、発表準備など全員が意欲的に取り組んでいた。オンライン授業において、個人作業ではなく LA とのペアワークであったことが意欲や責任感に繋がったのではないかと思う。一方、ディスカッションでは自発的な発言が少なく、教員が発言者を指名しなければ議論が進まないなど対面とは違う難しさがあり、今後の課題が残った。